

これまでの検討状況及び第3回検討委員会で検討していただきたい点（検討テーマ別）

令和3年12月16日
学校・家庭・地域の協働体制検討委員会
資料1

【検討テーマ①】
これからの学校が子どものために大切にしていきたい機能は

委員意見（第2回）	
現状	「子どものため」と思うと業務を減らすことができず、学校は飽和状態。
現状	なんとなく先生方が忙しいことは分かるが、何が忙しくてどんな支援が必要か分からない。
課題	これまでやってきたことを諦めるということも真剣に考える必要がある。
課題	押し付けでなく、お互いに専門性をもち、互いの専門性を生かし合うことが必要。

委員意見（第1回）	
課題	教員の多忙化、働き方改革の必要性
課題	求められる役割の増加をそのまま学校が担えるのか
方向性	一律・公平・平等から個別最適な学びへ
方向性	学校のための地域でなく、地域の中にある学校という考え方

検討テーマに対する方向性となる意見

- ・学校の先生方には一人一人の子どもたちをよく見てもらいたい。
- ・子どもたち自身が「何をしたいか」の声をどのように拾っていくかという視点

第3回検討委員会で検討していただきたい点

- ・学校（教員）の大切にしていきたい機能に特化するために、何を減らす（分ける）のか

【検討テーマ②】
子どもの学びや体験活動を充実させるために何が必要か

委員意見（第2回）	
現状	地域との連携や地域からの反応を受け取ることは子どもたちにとっても貴重な経験となっている。
課題	「社会に開かれた教育課程」の実現が求められるが、教員の多忙化は著しく、このままでは実現困難。
課題	管理職としては、教員にこれ以上勤務を増やすような要求することは難しい。
課題	考える余裕がないため、忙しい教員からは要望が出にくい。

委員意見（第1回）	
課題	教職員の異動にも対応できる持続可能な体制が必要
課題	地域コーディネーターによる強みの違い
方向性	部活動や学習支援などに地域の協力を得たい
方向性	年度や役員に左右されない体制づくり（PTA）

検討テーマに対する方向性となる意見

- ・「努力」や「子どものため」でごまかさず、教員の負担軽減をシステムとしてサポートしていく必要がある。
- ・校長・副校長だけでなく、各教科や担任の先生も地域と接点を持つことが重要
- ・【学校⇄地域または家庭】連携の矢印は一方通行ではだめ、逆のベクトルをいかに増やしていくかが重要。
- ・学校・家庭・地域それぞれの強みをうまくコーディネートすることが必要。
- ・支援や活動の継続性という視点で体制づくりを行う必要がある。
- ・それぞれの得意分野を生かして多様な活動が提供される仕組みが必要。

【検討テーマ③】
立場が異なる関係者のベクトルを合わせ、ゴール共有の仕組みや方法は

委員意見（第2回）	
現状	保護者の方とのディスカッションが、取組みを進める決断を助けている。
現状	取組みなどに対する理解を得ることで、協力を得やすくなっている。
課題	地域とともに学校をつくっていくためにも開かれた学校づくり協議会をいかに充実させていくかが大事。

委員意見（第1回）	
課題	学校からの情報発信が必要
課題	取組みありきでは負担感
課題	学習指導要領などの専門知識ない
課題	学校からの情報提供が欲しい
方向性	学校とのコミュニケーション求める声（PTA）
方向性	仲良く、風通し良く

検討テーマに対する方向性となる意見

- ・学校からも地域からも情報発信していくことが重要。
- ・日常的なコミュニケーションや、お互いの信頼関係を築きやすいシステムにしていく必要がある。
- ・開かれた学校づくり協議会がより学校経営に踏み込んでいくことが必要ではないか。

【検討テーマ④】
負担の軽減と主体的な参画を促すきっかけづくり（単発で、気軽に、得意分野で）

委員意見（第2回）	
現状	PTAを持たない保育園を選ぶ保護者もいる。
現状	子どもたちを育てていくことに関わりたい大人はいる。
現状	「家庭（保護者）」も多様であり、ひとくくりにできない。
課題	PTAやその役員だけでなく、その他の多くの保護者との共通認識も重要。

委員意見（第1回）	
課題	子どもの卒業で関係が途切れてしまう
課題	役員決めでの苦労や、通年で役割を担う負担感（PTA）
課題	担い手不足、高齢化
課題	同じ人ばかりで新しい人が入りにくい
課題	関わりたいがきっかけがない
方向性	ゆるく繋がり、ゆるく関わるができないか
方向性	各機関のチームビルドのうえに連携がある

検討テーマに対する方向性となる意見

- ・学校のリソースが保護者や地域に開放されることにより、保護者や地域の負担が軽減される。
- ・変わっていくことの見える化など活動の満足感が、次のモチベーションにつながるという好循環を生む仕組みが必要

第3回検討委員会で検討していただきたい点

- ・検討テーマ①で分けたものや、②の充実に向けた活動等に、押し付け合わず、主体的に参画するためのきっかけづくりについて

これら全体を実現（達成）するための仕組みづくり